

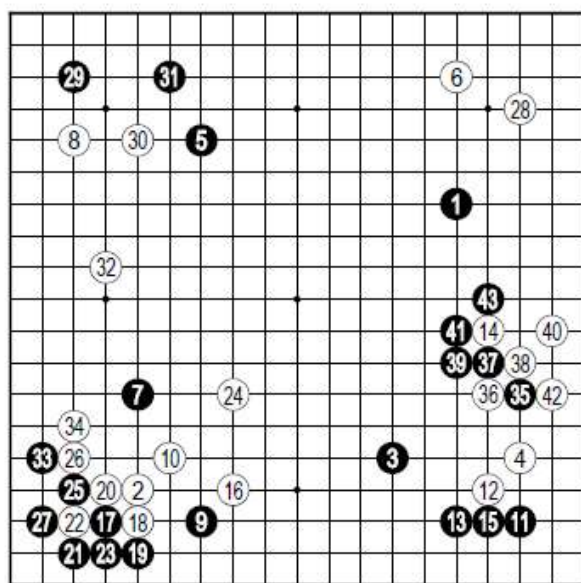
囲碁研究ノート

(参考) プロ棋士によってNHK杯で打たれた6七の布石

(1) 例1

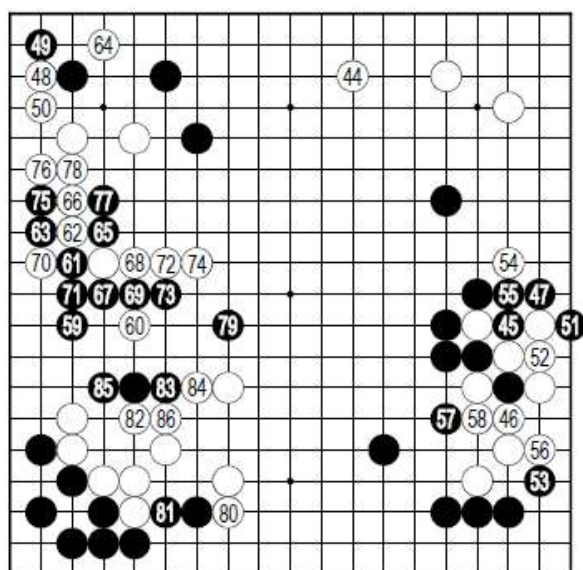
2014年11月2日2回戦第13局で、張栩九段対横田茂昭九段の対局が行われ、張九段が黒番で9目半勝った。

1,3,5,7と5七を打って、大升が完成して、隅の白石と向かい合う。黒41までで、黒1と3は連携できた。黒7が白石の中に取り込まれるかどうか。



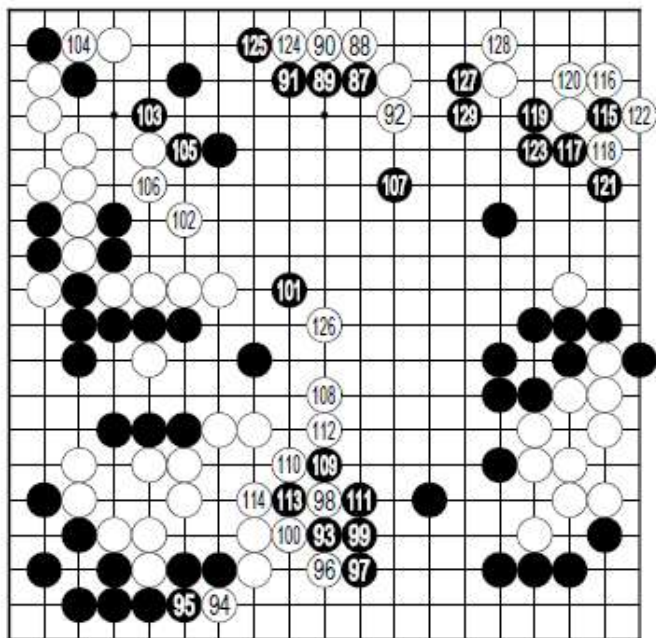
(1-43)

白86と白が守って、黒7からの黒石が白石を分断している。



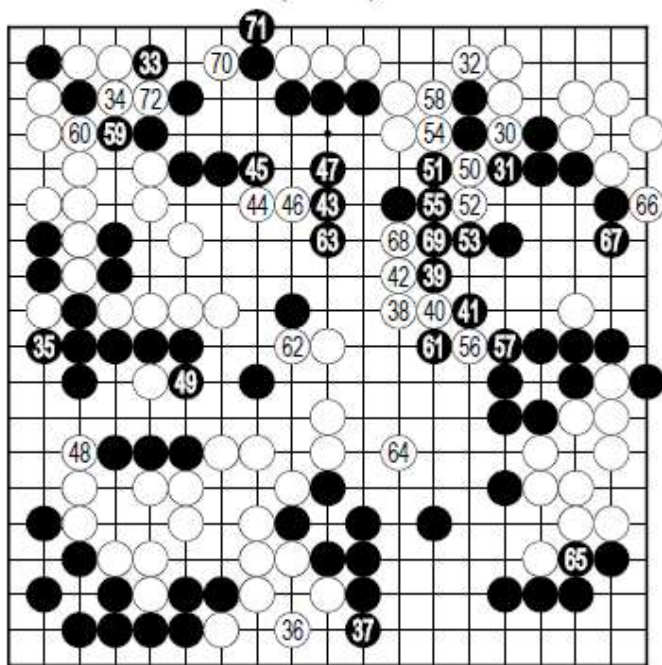
(44-86)

黒が下辺をまとめて、上辺の黒を守りながら右辺の黒と連携したところで、黒が有利な形となった。



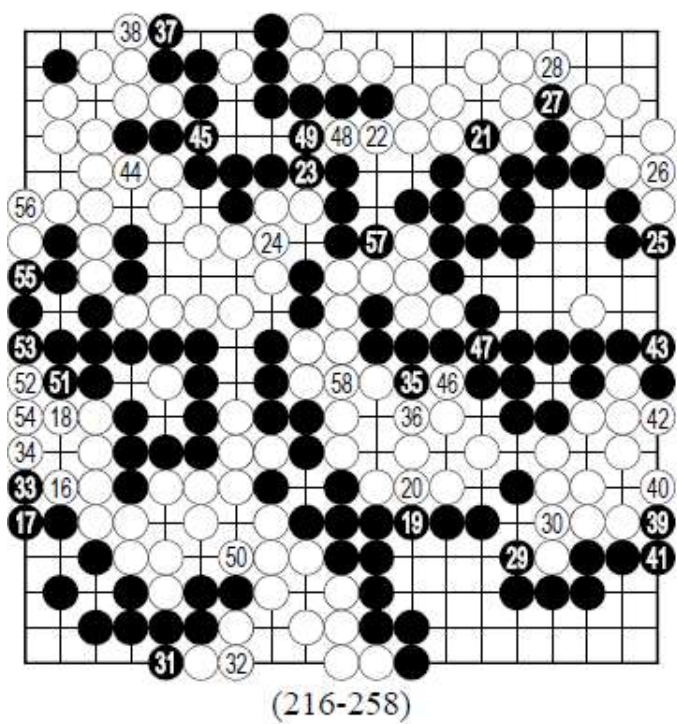
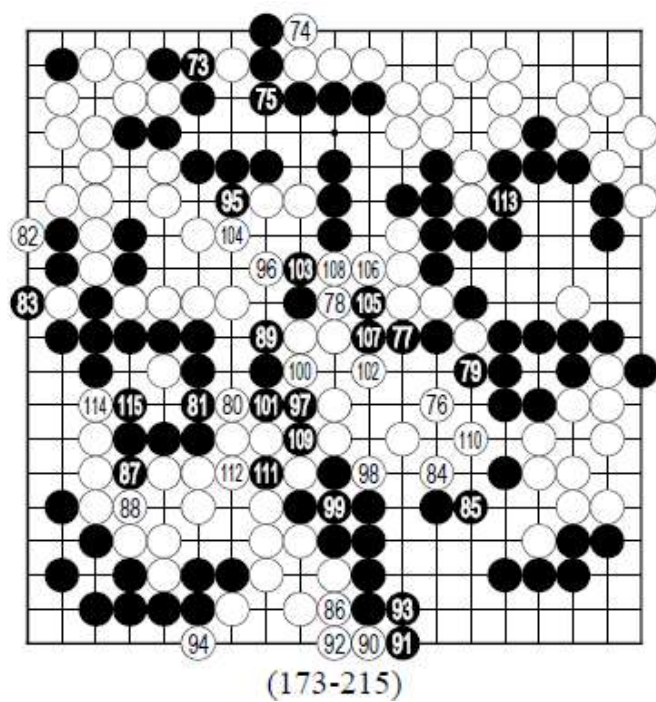
(87-129)

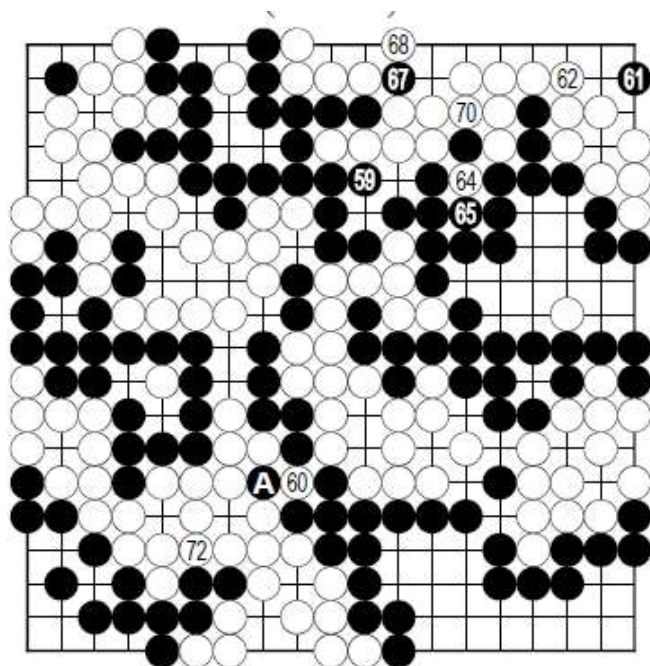
危なかった上辺の黒が右辺の黒と連絡して黒優勢となった。



(130-172)

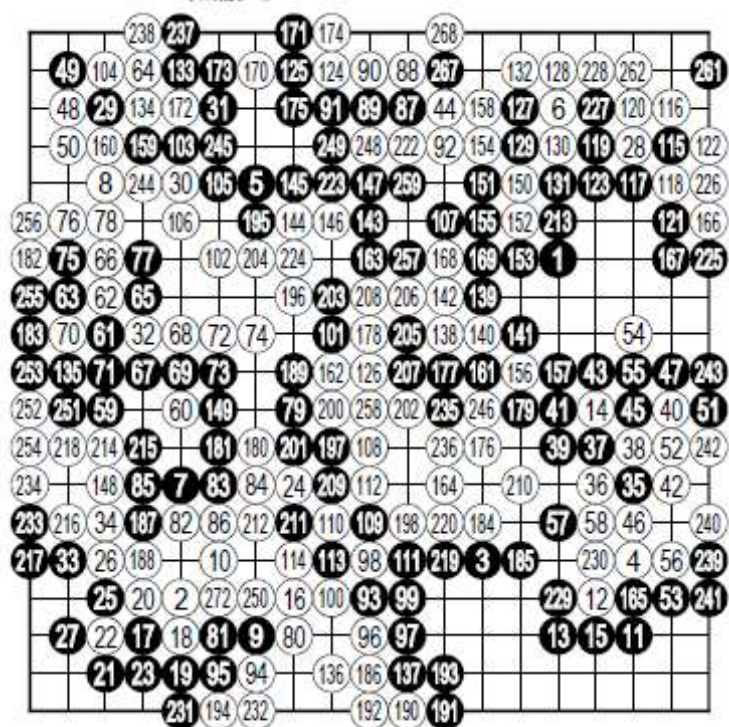
以下はヨセが進行した。





(259-273)

63(66) ko at A, 69[64], 71[A], 73[60].



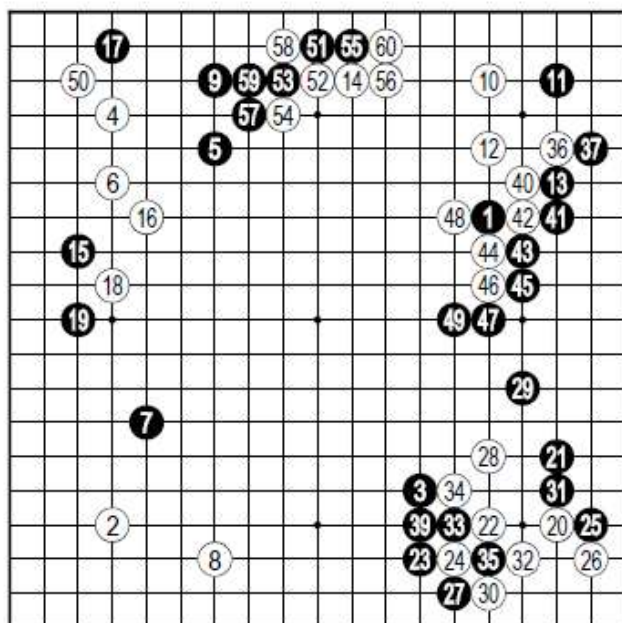
(1-273)

199[98], 221[129], 247[156], 260 263 ko at 110, 264[150],
265[152], 266[110], 269[150], 270[127], 271[211], 273[110].

(2) 例2

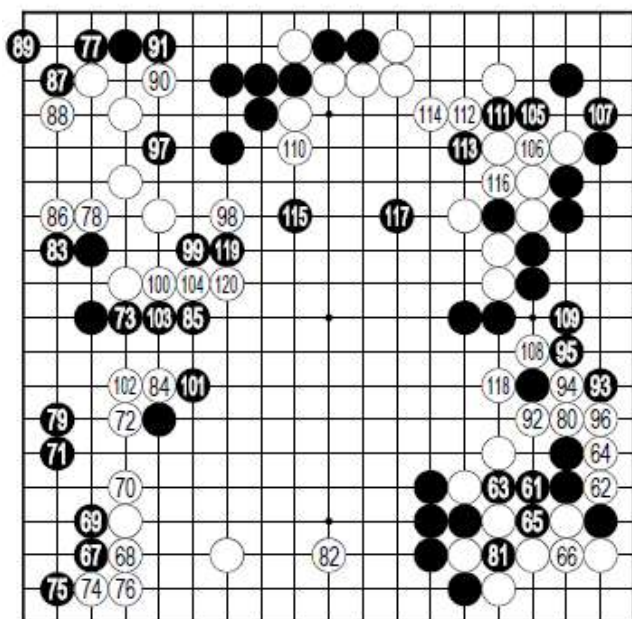
2014年9月28日の2回戦第6局で、蘇耀国八段対山城宏九段の対局が行われ、蘇八段が黒番で3目半勝ちとなった。これが多分最初の例ではないだろうか。

黒1, 3, 5, 7の大升ができた。5七の下で右下隅に打つと、右辺に黒地ができた。



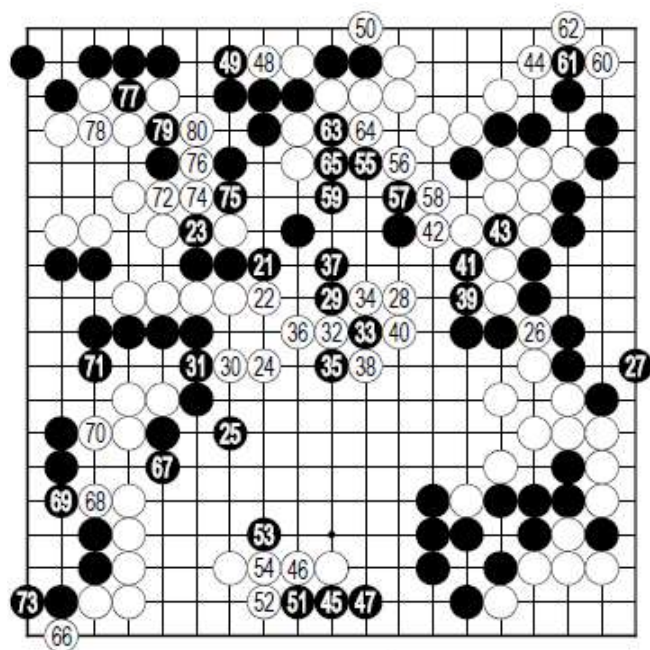
(1-60)
③⑧[②④].

逆に左上辺左辺では黒が隅に侵入した形になった。

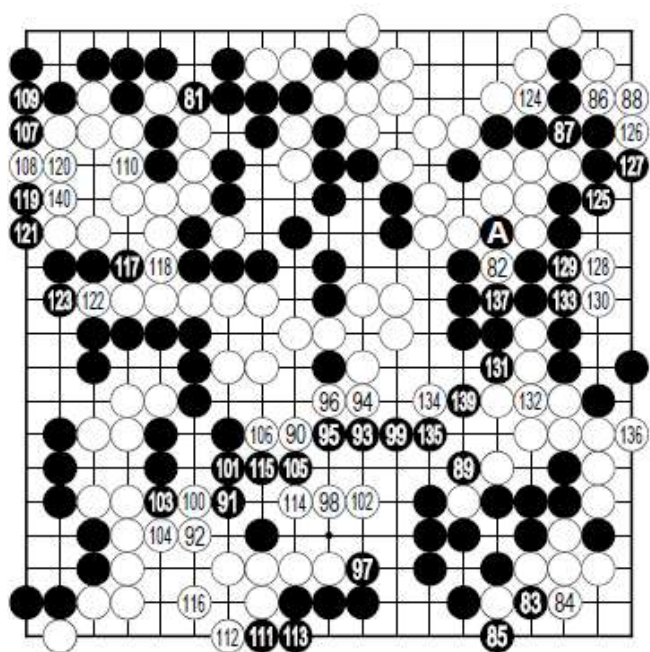


(61-120)

左辺上の白に絡みながら、黒は中央から下辺の白を圧縮し、中央上にも地を作った。

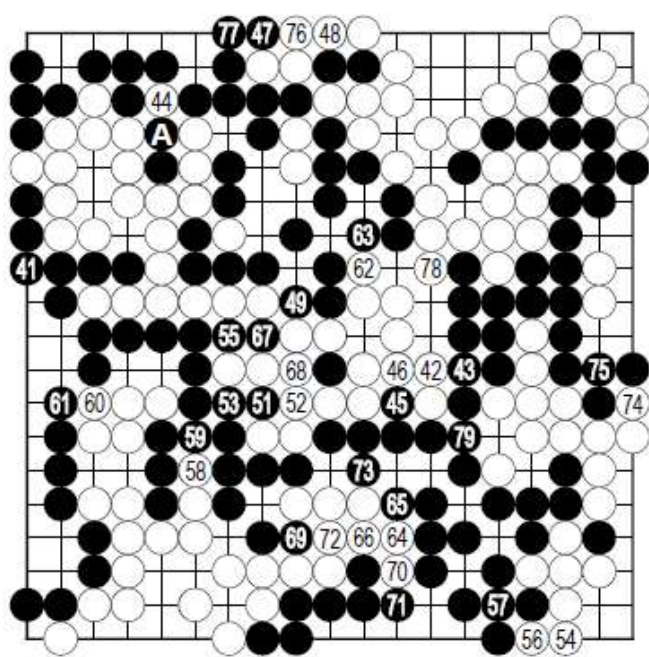


(121-180)



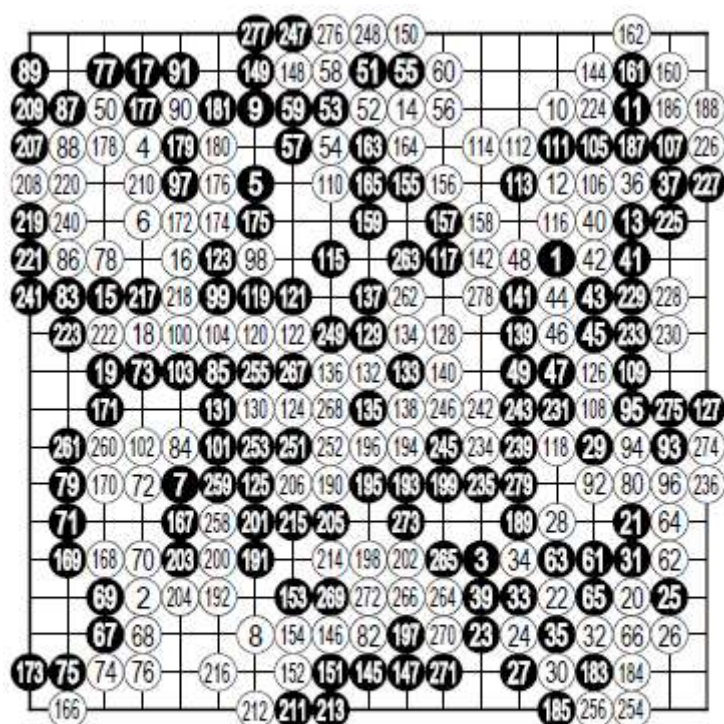
(181-240)

⑬[A].



(241-279)

⑤0[A].



(1-279)

③8[24], ⑧1[35], ①43[1], ①82[44], ②32[29], ②37[46],
②38[1], ②44[90], ②50[179], ②57[30].

(3) 5七布石と6七布石

プロ棋士が5七に打つと隅に対して働きが強いので、隅から地を広げようとする動きを妨害しやすい。従って、地に辛いプロ棋士として採用しやすい布石であろう。NHK杯というプロ棋士が勝負をかける場で5七からの布石が実用されたことは、5七のスペース布石が市民権を得たようで、嬉しい。

しかし、スペース布石からいうと、四つの5七を繋ぐ四つの6十一からできる大きな升を理想とするので、そのような布石をプロ棋士が打ってくればもっと嬉しい。

もうひとつのスペース布石6七は、敵が隅の地を取ることにに対して妨害しにくい。

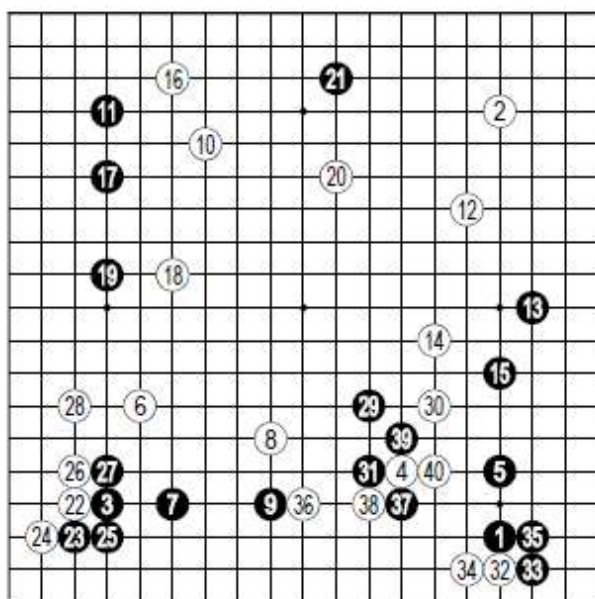
しかし、6七に有利な面もある。

- ① 6七と6十を打つと、この枠の中に侵入しにくいこと、ふたつの6七を6十で繋ぐと、強力な線ができるので、スペースを抑えるのに有力なはずである。
- ② 隅を守る手数が及ばないうちに中の布石が完成すれば、交互に打ってもなお残った隙間がある隅が容易に荒らされるか、圧迫されること、
- ③ 高い6線に近く打つと地を守りにくいので、6線に打ったからといって、隅を簡単に広げることができるわけではないこと
- ④ 星、高目にお互いに隅に打って、隅のハンディキャップを減殺してから6七を打つと、打ち易い。

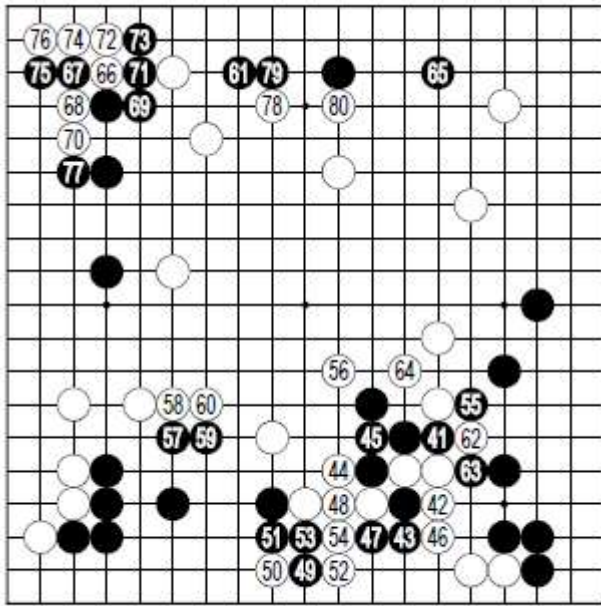
というわけで、プロ棋士が6七も打ってくれるようになると、大変嬉しい。

私の最近の実戦例から、中央の連絡を重視して、うまくいった例をいくつかあげる。

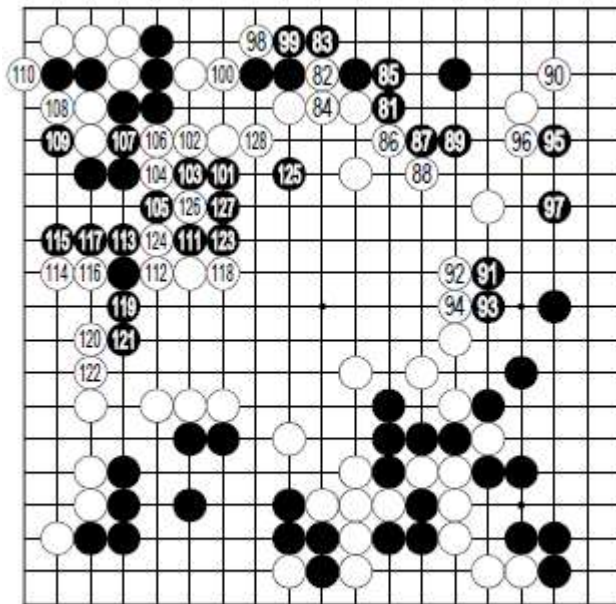
- ① Kさんとの対局 (白番、一隅に打ってから5七布石作戦)



(1-40)



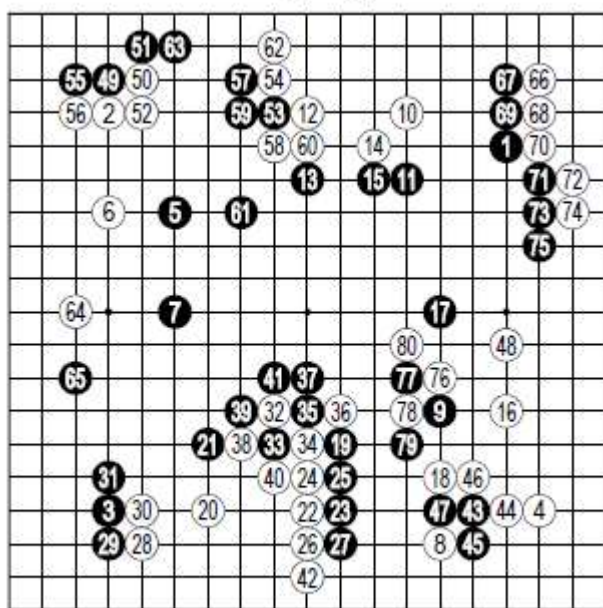
(41-80)



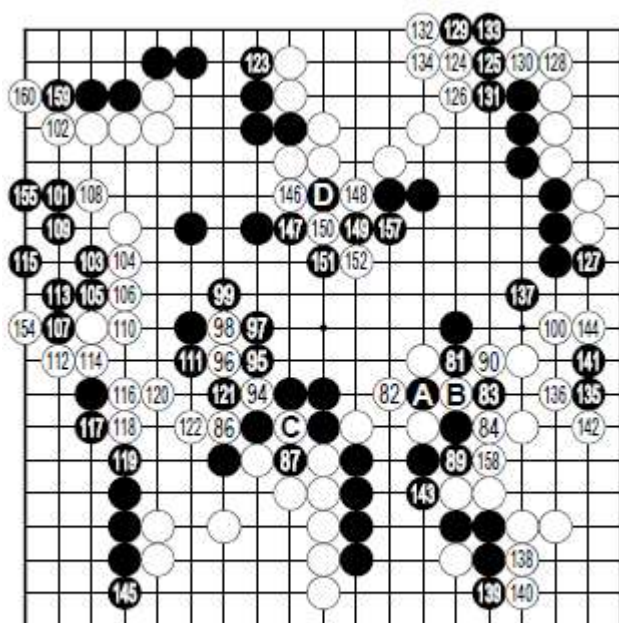
(81-128)

白 128 で黒の大石が取られることになる。

② Yさんとの対局例 (黒番、高目と星を打ってから六七布石作戦)

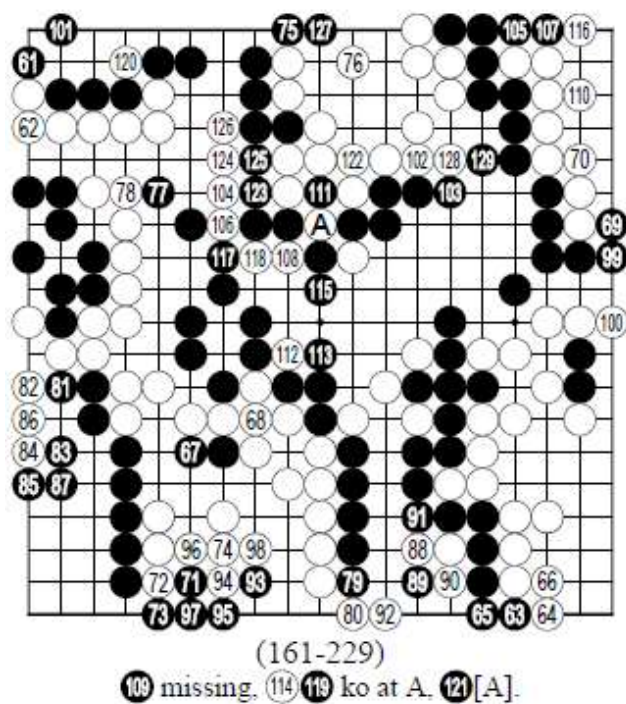


(1-80)

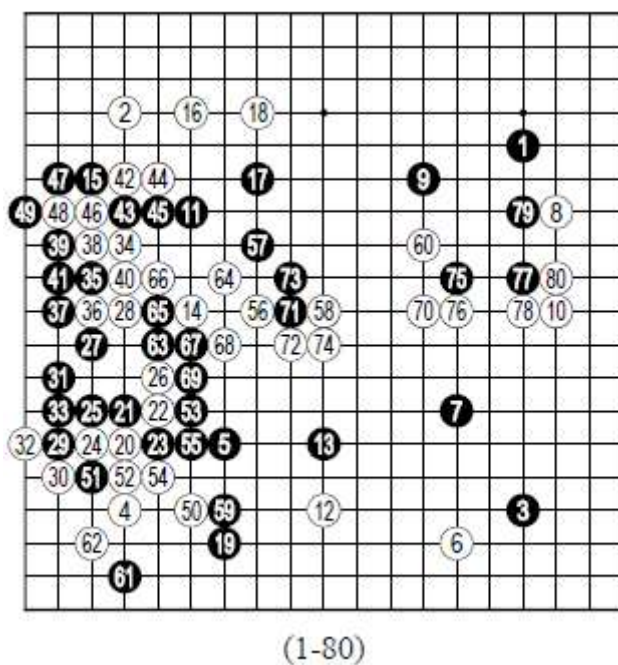


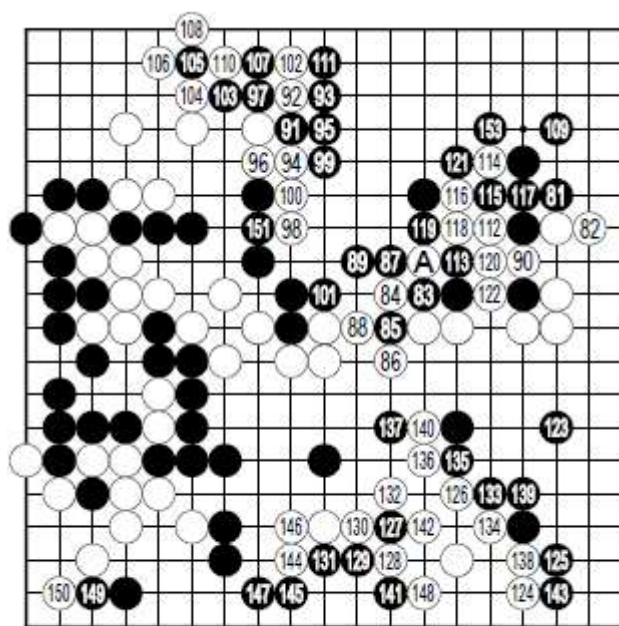
(81-160)

●85●88●91 ko at A, ●92[C], ●93[B], ●153●156 ko at D.



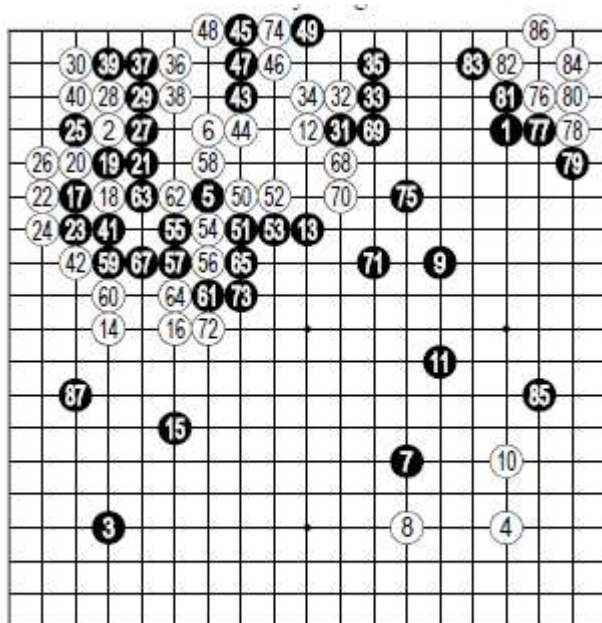
③ Sさんとの対局例 (黒番、高目、星を打ってから六七布石作戦)



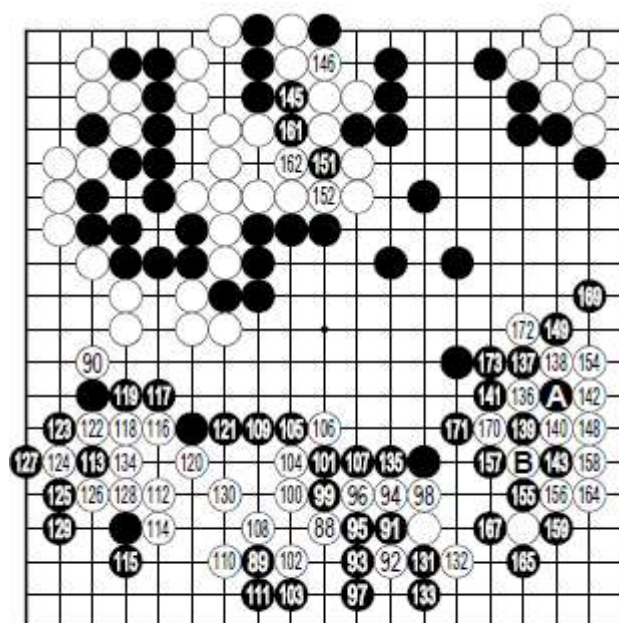


(81-153)
 152[A].

④ Nさんとの対局例 （黒番、タスキ星を打ってから六七布石作戦）



(1-87)
 66[5].



(88-173)

(144) (147) (150) (153) ko at (136). (160) (163) (166) ko at B. (168) [(136)].